

『獣の家のおもてなし』

声の出演 桔音：秋山はるる

声の出演 音子：涼貴涼

シナリオ：ツヅル

イラスト：小夏チハ

制作：オーガソフト



●ご注意

このシナリオ PDF ではシナリオと絶頂シーンの補足が入っています。
シナリオのみを楽しみたい方は通常のシナリオ PDF をお使い下さい。

・補足フォントカラー

・ 紫字：補足説明

・ 赤字：絶頂シーン（**ピーク時は太字**）

・『獣の家のおもてなし』 絶頂シーン （ピーク時）

・ 4 音子

SE 有：同時絶頂（1 7：2 8） SE 無：視聴者絶頂（1 7：1 8）

・ 5 桔音

SE 有：視聴者絶頂（1 8：2 8） SE 無：視聴者絶頂（1 8：1 7）

【0 不思議な世界】

○『誰か』が『不思議な世界の噂』を語っている

???

——この世には、人智では計り知ることのできない不思議な世界が存在するという噂があります。

そこは、この世との境界があやふやだと言われています。

ふと気づけば、その世界へ迷い込んでいることがあるらしいのです。

その世界はのどかで静寂としていて、そして人や動物も存在しない場所。

迷い込めば、そこにいる『誰か』に会わないと元の世に戻ることができません。

その『誰か』は迷い人を手厚くもてなし、元の世へと戻してくれるのだと言われています。

しかし無事に帰ってきた者は、もてなされたことだけは覚えているのに、その『誰か』のことはぼんやりとしか覚えていないそうです。

それでも、もう一度その世界へと迷い込みたくなる、それほどに心地が良い場所だと言われています……。

【1 迷い人】

○噂の世界へと迷い込んだあなた

○雪の降る何も無い世界を彷徨い、ようやく見つけた一軒家の戸を叩く

音子

……？

○戸を叩く

えっ？

今、戸を叩く音がしなかった？

ねえねえしたよね？

ね？ ねっ？

桔音

風が戸を叩く音かもしれないわよ。

随分と長い間、お客さんは来てないんだから。

音子

でもでも、今日は来てるかもしれないよ？

○戸を叩く

あっ！

ほら、気のせいじゃないかもよ？

桔音

そんなに気になるんだったら開けてみればいいじゃない。

音子

うんうん、そうだよね！

はいはい！ 今開けるよー。

○入り口に向かい、戸を開く音子

わっ!? 人間だ！

やっぱり思ったとおり人間だったよ！

すごいすごい！ 人間なんて久しぶりだよ！

今日はお祝いだね、桔音？

桔音

もう、音子ったら……。

それにしても、本当にお客さんだったのね。

音子

ね、ね、どうする桔音？

今日は何でお祝いする？

桔音

音子、落ち着きなさい。

こんな雪の中、ここまで辿り着いたのよ？

いつまでもそんなに寒い場所で待たせていないで、家の中に入ってもらったらどう？

音子

あ、そうだった！ そうだよね！

ごめんね、寒かったよね？

ほら、入って入って！

遠慮なんかいらないからね！

どうぞどうぞ！

○二人の姿を見て固まる

……どうしたの？

ほら、寒いでしょ？

中に入って良いよ？

桔音

もしかしてお客さん、私たちを見て驚いているんじゃないの？

ほら、お客さんと私たち、見た目が違うから。

あの……お客さん？

大丈夫よ、そんなに怯えなくても。

あなたに危害を加えるつもりはないわ。

私は桔音、その子は音子。

……って言っても、お客さんが知ってる狐と猫に比べると少し……いえ、だいぶ違うかも知れないわね。

尻尾も多いし、それに何より人の言葉を喋っているし……。

音子

あー、そっか。

そうだよねー。

お話できる狐と猫なんて、怪しいよねー？

だけどね、私たちは怪しくないんだよー？

桔音

怪しくない、だなんて言っても

すぐには信用してもらえないかもしれないけど……。

私たちはただ明日の朝まで、雪風をしのげる場所を提供したいだけ。

だから、ね？

怖がらないで入って来なさい？

音子

そうそう、そういうこと！

なーんにも心配いらないからね～？

戸を開けっ放しだと寒いよ！

ほらほら、入って入って～！

○あなたが靴を脱いで部屋の中に入ると、嬉しそうに入り口の戸を閉める音子

桔音

外は寒かったでしょう。

ほら、囲炉裏の近くに座って。

音子？

あなたはお風呂の準備をしてきてくれるかしら。

音子

お風呂？

あ、そうだよね！

暖まるにはお風呂が一番だよね！

沸かしてくるよ！

○お風呂場へ駆けて行く音子を見送り、囲炉裏の近くに腰を下ろす。

桔音

もう、あの子ったら……ごめんなさいね？

久しぶりのお客さんが嬉しいみたいで。

上着、濡れてるでしょ？

そのままだと風邪を引いてしまうわ。

ほら、脱いで？

○戸惑う

……大丈夫、遠慮なんて必要ないわ。

それとも脱がして欲しい？

だったら……。

○濡れた上着を脱がす桔音

……ほら、こんなに濡れてた。寒いはずよ。

もっと火の近くにおいで？

お風呂が沸くまでの間、ゆっくり体を温めて。

○囲炉裏の火に少し近寄る

……あなたはとっくに気づいていると思うけど、ここはあなたの住む世界じゃないの。

ここはこの世でもあの世でもない、そこではないどこか。

ここまで歩いてきたから分かるでしょ？

この世界には人や生き物は誰もいない……私たちを除いてね。

だけどたまに、あなたみたいに紛れ込んでくるものがいる。

私たちはね、そうやって紛れ込んできたカモを食べて生きながらえているのよ。

さあ……あなたはどんな味かしら？

○怯える

……うふふふっ、冗談よ。

もしかして本気にでもした？

大丈夫、私たちは危害を加えることはしないわ。

体を温めてあげて、お腹を満たしてあげて、束の間の交流を楽しませてもらっているのよ。

今日はもう遅いでしょ？

雪も強くなってきたし、明日の朝には元の世界に戻してあげる。

まずは冷え切った体を温めないとね。

ほら、私の手を握って？ 温かいでしょ？

氷みたいになってるわね。

脱いで火に当たった方が温まるわよ。

さあほら、脱いで？

○恥ずかしがる

どうしたの？

うふふっ、もしかして恥ずかしい？

大丈夫、恥ずかしがる必要なんてないわ。

あなたも分かっているでしょ？

見ての通り、私もあの子も人間じゃないわ。

耳も尻尾も気になってるんでしょ？

さっきからチラチラ見て来るんだもの、誰だって分かるわ。

もしかして作り物なんじゃないか、って思っていない？

動かして見せましょうか？

ほら……。

○耳や尻尾を自在に動かして見せる桔音

ふふっ、これで信じてもらえたかしら？

私と音子はあなたと違う、人でも獣でもない存在。

簡単に言えば種族が違うの。

例えばあなたは、犬の前で裸になることを恥ずかしいと思う？

そういうこと。

だから恥ずかしがる必要なんてない、そうでしょ？

だから、ね？

脱いで？

○上半身を脱ぐ

……上だけ？

冷え切ってるのは上だけじゃないでしょ。

下も脱ぎましょう。

恥ずかしがらないで、ほら……。

○下半身も脱ぐ

あらあら……寒さですっかり縮こまっちゃって。

大丈夫、尻尾で包み込んで温めてあげるからね。

初めてでしょ？

尻尾で温められるのは。

私の尻尾はふかふかで大きいから、すぐに温まるわ。

それに尻尾もたくさんあるから、一度に色んな箇所を温めてあげられるの。

だから期待してくれても良いのよ？

それじゃあ……まずは顔から始めましょうか？

……うふふっ、アソコから温めてもらえと思った？

焦っちゃダメよ。うふふふっ。

その冷え切った顔を尻尾で撫でてあげる。

こうやって、尻尾を前に回して、顔を埋めるようにして……。

よしよし……よしよし……。

ふーっ……うふふ、息も温かく感じるでしょ？

ふーっ、ふーっ、ふうーっ……。

ほら、手を出して？

ふふ、自分でも触ってみて？

大丈夫、怖がらないで。

優しく触ったら大丈夫だから。

○桔音のたくさんの大きな尻尾に手を差し込み、優しくモフモフする

……そう、その調子。もっと力を入れてみても良いわ。

○思いきりモフモフする

……段々遠慮がなくなってきたわね。

いいえ、それで良いのよ。

それほど私の尻尾に興味を持ってくれたってことだから。

人間には、ないものね。

大丈夫よ、もっと触ってもらって。その方が早く温まると思うわ。

……ふ……ふふっ……んふっ……っ。

触っても良いと言っても、やっぱり少しくすぐったいわね。

そろそろ首も温まりたいでしょ？

尻尾を首に巻き付けて……。

よしよし……よしよし……。

首から肩……腕も、背中も……。

あらあら、お腹もこんなに冷えちゃって。

太ももも冷えてるわね。大丈夫、温めてあげるから。

太もも……膝……つま先……。

これで全身さすってあげられたかしら？

……うふふっ、違うわよね？

まだ大事な部分をさすさすしてあげられていないわ。

大丈夫、私に任せておいて。

男の人の大事な部分なんだから、温めてあげないとね。

○おちんちんを包むように手を添える桔音

ほら、こんなに冷えちゃってる。私の手でしっかり温まって？

帰るまでにはしっかり温めてあげるから……。

ん……っ、ん……。

ふふっ、口の中はまだ冷たいままなのね。

だったらほら、口を開いてみて？

大丈夫、全部私に任せてくれればいいから……。

ん……ああ……、……はあ。

私の舌、温かいでしょ？

やけどしそうなくらいに……。

……ん、……ふふっ。

……舌がまだ遠慮してるわよ？

恥ずかしがらないで、もっと舌を伸ばしてみて？

ん……あむ、ん、あ……、ん……ん……んっ、……ん。

……ほら、私の目、しっかり見て？

んふふ、だいぶ目がトロンってしてきたわね。

温かくなってきた証拠よ。

大事な部分も……ふふっ、さっきより熱くなってきたわ。

でもそれだけじゃない……大きくて、堅くなってきた。

んふふ、こんな不思議な世界に迷い込んだのに反応しちゃうの？

それとも、私が獣じみた体だから興奮してるの？

どっちにしても、大きくなったのは事実だから受け入れないよね。

おちんちんの勃起って、体が温まる上でとっても大事なことのよ。

血の巡りが良くなしないと、こんなに大きくなれないんだから。

恥ずかしがらないで、もっとおちんちんを大きくしてみましようか。

優しく触りながら、もっと舌を絡め合わせて……。

あ……ん、んっ……んあ……あむ、んっ。

あ、はあ……んう、んあ……あ……、はあ……んふ、んう……ん。

……さっきから、私ばかり舌を動かしてるわよ？

自分から積極的に動かさないと、温まらないわ。

ほら、動かして……？

あ……んふ、んっ……んんうっ……ん……そう、上手。

んふうっ、あ……んうっ、んふ……んんん、……っはあ、……んうう。

私の舌、ん……んっ、もっと吸ってみて？

んっ……んっ、んぐっ、んむっ、んうううっ……ん、んうっ……んあっ。

すごい、激しい……。

んっ、んっ、んっ、あっ、……んぐっ、んむうっ、ん……ふはっ……。

それじゃあ今度は、私の舌の動きに合わせてみて？

んっ、はあ……んっ、……あっ、……ぷはあ……あ、んあ……。

んふ……ん、んっ、ん……ん……んは、あっ……んあ……あっ。

ん、んはあうっ、う……んっ、ん……んあう、ん……んっ、んう……ぷはあっ……。

んっ、はあ……あ……っ。

んふふっ、温める目的を忘れて、つい熱中しちゃったわ。

あなた、とっても上手なのね。

それに……おちんちんもかなり大きくなってる。

うふっ、ほら……もうこんなにギンギンに堅い。

さっきまで寒くてあんなに凍えていたのに、とっても熱いの。

……あなたも期待してるんでしょ？

こんなにおちんちんを大きくさせているんだから、当然のことよね？

それじゃあ今度は、もっと気持ち良いことを……。

音子

桔音ー！

お風呂の準備できたよー！

桔音

……あら、残念だったわね。

これからって時だったのに……うふふっ。

大丈夫よ、まだ夜明けまではたくさん時間があるんですもの。

まずはお風呂で、体の芯から温まりましょ？

【2 体の芯から温めて】

○お風呂で湯船をかき混ぜてみせる音子

音子

ほらほらー！

とーっても良い湯加減だよー！

桔音

ふふっ、この子ったら久しぶりのお客さんに張り切っちゃって。

それくらいあなたが来てくれたのが嬉しいのよ、許してあげてね。

音子

裸だからそのまま入れるね！

ほら入って？ ほらほらほらー！

桔音

もう、慌てないのよ音子？

まだ準備で足りてないものがあるでしょ？

よく考えてみて。

音子

足りないもの？

えーっと……う～ん……………あ、分かった！

着替えの準備ができてない！

桔音

そうよ、よくできました。

それじゃあ音子、お客さんの着替えを取ってきてくれる？

音子

うん、分かった！

いってきまーす！

○あなたの着替えを取りに駆けて行く音子

桔音

……うふふ。あの子が着替えを取りに行っている間に、温まりましょうか。

ほら、その椅子に座って。

○椅子に座ったあなたの背中にお湯をかける桔音

んふふ……どう、温かいでしょ？

このまま背中を流しましょうか。

○着替えを持って戻ってくる音子

音子

桔音ー！ 着替え持ってきたよー！

もう、しばらくお客さんなんて来なかったから、着替えを探すのに手間取ったよー！

桔音

あら、戻ってきたのね音子。

ちょうど今から、背中を流してあげるところだったのよ。

音子

背中を？ 洗うの？

ふふふふっ、ついにこのときが来た……！

いつも桔音の背中を流して腕を鍛えているこの私の、真の実力を見せる時が……！

桔音

あらあら、この子ったら意気込んじゃってるわ。

……でも、良い機会かもね。

たまには私の背中じゃなくって、お客さんの背中も流してあげて。

私はその間、夕餉の支度をしておくから。

音子

はーいつ。

○台所へ向かう桔音。服を脱いでお風呂場に入る音子

ってわけでお客さん、お背中お流ししますよー！

かゆいところがあったら言ってくださいね？

○手拭いに石鹸をつけ、背中を洗い始める音子

……どうかな？

力加減大丈夫？

○頷く

よーし、このまま続けていくね？

○あなたの身体を洗いながら語りかける音子

……ねえねえ。

君ってやっぱり他の世界から来たんだよね？

たまーにね、迷い込んでくるんだよ。

……かく言う私も、実は子猫の時に迷い込んできたんだよねー。

気づいたらね、この何もない世界に迷い込んでたの。

その時も桔音は私を保護してくれようとしたんだけど、子猫だったから私、警戒心が強くってね。

お風呂に入れてもらったのに暴れたり、威嚇したり、逃げ出したり……今思えば最悪なことしちゃってたんだ。

だけどね、それでも桔音ってばお世話してくれるの。

まるでお母さんみたいに……って言っても、私生まれてすぐにお母さんとはぐれちゃったから、お母さんってのがわかんないんだけど。

でも、そんな風に優しくお世話してもらったら、嬉しくって、ありがとうって気持ちになったんだ。

それにね、その時思ったの。

桔音って、この世界に一人ぼっちでさみしくないのかなーって。

だからね、私その時決めたんだ。

桔音と一緒にずーっと暮らせるようになろうって。

だけど普通の猫じゃ、この世界でずーっとは過ごせなかった。

どうしてもサヨナラしなくちゃいけなくなった。

だから桔音に聞いたんだよ。

どうしたら一緒に過ごせるのって。

そしたらね、教えてくれたんだ。

猫又になったら一緒に暮らせるって。

猫又になればたら、またこの世界に戻ってこれるって。

だから猫又になろうって決めたんだ！

だけどね大変なんだよー、猫又になるのって。

猫岳って場所知ってる？

そこで修行しないといけない上に、百歳まで長生きしないと猫又になれないんだ。

だけど桔音と一緒にいたいって気持ちだけで頑張ったんだ。

毎日毎日通って、修行して……ようやく猫又になれた。

猫又の力を使って……人間は妖力って言ってたけど、その力を使ってまたここに戻ってこられた。

もう普通の猫じゃない。だから桔音と一緒にこの世界で暮らしていける。

百年近くもかかったけど、成し遂げられたんだよ。

それからね、ずーっと一緒なんだ。

だからね、きっと桔音もさみしくなくなったって思うんだ。

桔音

そんなことしてくれなくても、元々さみしくなかったんだけどね。

音子

ふふふふっ、地獄耳だよ、桔音って。

今更恥ずかしがらなくっても良いのになぁ。

○ふと、水滴が落ちる音が響く

……私、元の世界じゃお風呂って嫌いだった。

だけど桔音と一緒にこうやって、迷い込んできた生き物の世話をする内に、いつの間にかお風呂が好きになってたんだ。

……ねえ、気持ち良い？

温かいお風呂でゴシゴシされて、気持ち良い？

……それとも、男の人はこっちの方が嬉しいのかな？　こうやって……。

○胸を背中に押し当てる音子

胸で背中を洗ってあげるの。胸に泡をつけて……。

○胸に泡をつける音子

こうして背中にこすりつけて……。

○胸を使って背中をこする音子

……小さいから、あんまり感じない？

嬉しくない？

○あなたの股間を覗き込む音子

……あ、そうでもないみたい。

おちんちん、ビクビクって動いてる。

やっぱりこう言うの好き？

……じゃあ、こうして……。

○お互いの全身に泡を広げていく音子

全身に泡をたっぷりつけて……。

こすりつけたら……。

○全身を擦りつけ合う音子

あぁっ、……んうっ、……んふ、ん……はぁっ、……ん、どうかな？

○気持ち良さそうなあなたを見る音子

……うふふふっ、これも良いみたいだね。

だったらもっと良いことしてあげたいから、湯船につかりうか。

お湯で洗い流すね？

うんしょ……。

○あなたにお湯をかける音子

うふふっ。私も……。

○自分にもお湯をかけて洗い流す音子

……流し忘れないかな？

それじゃあお先に湯船にどうぞ～？

○湯船に入る

わっ、わー！　たくさんお湯が溢れだしてきた！

きみて体が大きいんだね！

これじゃあ私が入る場所ないかも……あ、そうだ！

ね、膝の上に乗っても良い？

普通の猫だった頃は、よくそうやって人間に抱っこしてもらってたんだ。

良いよね？

○湯船に足を浸ける音子

膝の上、向かい合わせに座るよ？

んっしょっと……。

○膝の上に座るように湯船に浸かる音子

ふふふっ、おちんちんすごく熱い。

温かい湯船の中で熱いって感じるくらいだから、相当だよな。

でももっと温かくなって欲しいなあ。

君のこの大きくなったおちんちんに、私のおまんこを擦りつけたらもっと温まってもらえるかな？

こうやって……んっ……んっ……ほら、気持ち良いでしょ？

私も気持ち良いよ……んっ……んあぁっ……んっ、んんううっ……あぁっ。

君の気持ちよさそうな顔見てたら、キスしたくなってきちゃった……！

顔、前に出して？

○顔を近付けるあなたにキスする音子

んっ、んんうっ……ん、んう……んっ。

んんん、んう、ん……んあ、んう……はあ……。

すごい……おちんちん、どんどん堅くなってる……！

あむんっ、んっ、んっ……んれえ……っ。

君の舌の動き、とっても気持ち良い……。

んむう、んっ、んはあっ……ああむっ、んっ……ん……んは……。

浴室だから、音が反響して、すごくエッチ……！

はあんむっんっ、んうっ、んふえっ……ん……んあっ、ああうっ。

腰、勝手に動いちゃう……。

んん、ん、むっ……。

どんどん速くなっちゃう……！

はむっ……んう、んん、んっ、……んんはあっ。

んあむんんっ、んっ……んんっ、んっ、んんっ、んんううっ……！

もっと舌、私の口の中に来て……？

私の口の中、たくさん舐めて……。

んんっ、んっ……んむあっ！

はあっ、んっ、んっ、うんっ……んあっ……ん、ふえっ……！

はっ……はあんっ……。

こんなにエッチなの、すごい……。

んううっ、んっ……んんはあっ。

こんな気分になったりや……んっ、んんっ……シたくなっちゃう……！

君の大きいのを、私の中に入れて欲しくなっちゃう……。

んっ、んうっ……！

んはあ……はあ……。

……良いよね……？

良いに決まってるよね……？

このまま、一緒に……。

桔音

二人ともー？

ご飯できわたよー？

音子

……うう～、残念。

これからだったのにねー、あははっ。

だけど、腹が減っては戦ができぬ、だよね。

お腹がいっぱいにならないと、こういうエッチなことも満足にできないよ。

それにね、桔音の料理って絶品なんだよー？

まずはしっかり食べてその後に……ね？

うん、それじゃあ上がろうか。

【3 夕餉の後は】

○夕餉と片付けを終えてくつろぐ三人

音子

……はい、お腹いっぱい！

やっぱり桔音のご飯は美味しいなー！

桔音

うふふっ、音子ったら。お客様より食べてどうするのよ。

どうだったかしら、私の夕餉のお味は？

お口に合った？

○頷く

……そう、良かった。

音子

あ、桔音喜んで！

桔音ってなかなか笑わないんだけどね、見慣れてくると表情の変化が分かってくるんだよ。

もしかしたら私より、表情豊かかもしないよー？

桔音

はいはい、戯れはこれくらいにしましょう。

もう夜も遅いし、食事も済んだことだし……ね？

これからどんなことをするか、分かってるわよね……？

音子

もちろん分かっていると思うよ、桔音？

だってお客さん、すごく期待してるみたいだし。

桔音

ふふふっ、仕方が無いわね。

それじゃあそのご期待にお応えして……。

……………明日も早いことだし寝ましょうか？

音子

うんうん、そうしよう！

○がっかりする

……あれ？ もしかして君、何か期待してた？

このこのお、スケベなんだからっ！

桔音

音子。

お客さんをからかっている時間があるなら、布団を敷く手伝いをしてくれるかしら？

音子

はいっ！

○押し入れを開け、楽しそうに布団を敷く二人

音子

おーい！

寝る準備できたよ、こっちおいで！

君はここ、私と桔音の間の布団。

特等席だよ、このこのおっ！

○二人の間の布団に向かう

桔音

うふふっ、ごめんなさいね。

音子ったら、お客さんが来るといつもこうやって川の字で寝たがるの。

音子

あー、いつぶりの川の字だろー？

わくわくしすぎて眠れないかもっ。

桔音

音子、そんなに大きな声出さないの。

お客さんは疲れてるのよ？ 静かに休ませてあげて。

ほら、横になって？

この部屋少し狭いから、ちょっと密着気味だけど……。

あなたはその方が嬉しかったりする？

音子

あ、今ニヤニヤってしてた？

下心見えすぎだよ、君。

桔音

ほら、いつまでも騒いでいないの。

灯り消すわよ？

○あなたが横になると行灯の明かりを吹き消し、布団に入る桔音。

○布団に入るも興奮で寝付けない音子

音子

ふっふーん♪ ふふふーん♪

へへへへー、今日はお客さんと一緒ー♪

あー、やっぱり楽しくって眠れないなあ。

桔音

音子、静かに。

あなたがそんなに騒いだら、私たちも眠れないじゃない。

……もともと、お客さんは元から眠れないかもしれないけど……。

音子

お客さんが眠れない？ どういうこと？

桔音

だって私たち、こんなに密着してるのよ？

そんなことしたらきっと、こっちの方が元気になってくるはずよ。

そうでしょ？

音子

こっち？ こっちってどっち？

桔音

こっちって言ったらこっち。

お腹よりもっと下、股の付け根の部分……。

○あなたの浴衣をはだけさせ手を下へと滑らせていく桔音

うふふ……実はね、最初に手でさすって温めてあげていた時、大きくなっていたのよ。

ね、そうでしょ？ もちろん覚えてるわよね。

音子

へー、そうなんだ？

でもね、お風呂でも一緒だったよ？

体で洗ってあげてたら、大きくて堅くなって……。

ねえねえ、もしかして興奮してる？

桔音

お風呂でもそんなことがあったの？
こんな場所に迷い込んできて、発情するなんて。
よっぽどスケベなのね、あなたって。
だけど私、そういうの嫌いじゃないわよ。

音子

こうやって私たちに挟まれてたらさ、やっぱり興奮しちゃうの？
また大きくなってる？

桔音

音子、そんなこと聞いたら失礼でしょ。
それに……ふふっ、大きくなるに決まってるでしょ？
だから、二人でもっと大きくしてあげましょうか。
体を触られるのは好き？
音子と私で、あなたの全身をさすってあげる。
手でさすって欲しい？
それとも……このふさふさの尻尾？

○尻尾と聞いて興奮する

音子

あははははっ、君って分かりやすいね。
尻尾で全身触って欲しいんだ？
もう、仕方ないなあ。

○二本の尻尾で優しくさする音子

……ほらほらっ。
どう？ ふさふさで気持ち良いでしょ？

桔音

腕も、胸も、お腹も優しくさすってあげて、音子？

私は足の方を……尻尾越しにさすってあげるわ。

ほらこうして……。

○大きな尻尾ごと足をさする桔音

ふふっ。

ふかふかの尻尾、気に入ってくれたみたい。

息づかいが荒くなってるからすぐに分かるわ。

それに……アソコが熱くなってるわね。

全身をさすられるより、やっぱりおちんちんをさわさわされる方が興味ある？

だったら音子、二人の尻尾でおちんちんを包み込んであげましょう。

音子

しょうがないなあ……わうっ!?

わっ……もうこんなに熱いの？

お風呂でもこんなに熱くはなかったのに……！

すごい……こんなになってるなんて……っ。

桔音

そうね、とっても堅い……！

……うふふっ、おちんちんの先端からいやらしい臭いと体液が出てきてる。

音子

うん、すごい臭い……！

ねえ桔音……？

このねばねばしたのなに？

この臭い嗅いでると、なんだか変な気分になっちゃう……っ。

桔音

これはね、我慢汁って言うの。

男の人がエッチな気分になったら、おちんちんの先っぽから出てくるのよ。

音子

我慢……？

そんなことしないで良いのに……！

言ってくれたらいつだって、エッチいことしてあげるのに……っ。

んあっ……おちんちんの臭い、強くなってきた……！

こんなに強い臭い嗅いじゃったらもう……っ。

桔音

……ふふっ。

音子ったら、あなたの勃起したおちんちんに発情してるみたいよ？

ほら、分かるでしょ吐息で。

熱い息が、耳にかかっているでしょ？

音子

はあ……はあ……ね、ねえ。

尻尾で包むだけじゃ、温かにならない……よね？

せっかくだからさ、今度は私の中で温めてあげる……！

君のおちんちんと同じくらい、トロトロになってるから……！

きとおちんちんズブって差し込んだら、温かくなれるよ……？

桔音

あらあら、もう我慢ができなくなったのね。

もう、仕方のない子。

最初は私から欲しかったけど、あきらめるしかなさそうね。

悪いけど、音子は言い始めたら聞かない子なの。

相手になってもらって良いかしら？

……その代わり、好きなだけ気持ち良くなって良いわ。

これまで我慢した分も含めて……ね？

本能のままに、たくさん気持ち良くなって。

それじゃあ音子、そのまま四つん這いになりなさい。

音子

うん、分かった……はあ、はあ。

○あなたにお尻を向けて四つん這いになる音子

こう……？

こうで良いよね……？

桔音

音子はね、後ろから責められるのが大好きなの。

思う存分、その熱くて堅いので突いてあげて？

【4 音子】

[S E 有：同時絶頂（1 7：2 8） S E 無：同時絶頂（1 7：1 8）]

音子

ねえねえ……！

早く来てよお、早くうっ！

おちんちん、入れるところわかんない？

ほら、ここだよここっ。

分かりやすいように広げてあげるから……ほら。

○おまんこを広げてみせる音子

んんっ……！

自分で広げても、気持ち良い……！

ここに堅いおちんちん入れてもらったら、もっと気持ち良いんだろうなあ……。

んああっ！

あっ……おまんこからお汁、出ちゃった……！

入れてもらうところ想像しちゃったら、おまんこの奥からトロって出てきたあっ。

桔音

ふふっ、音子ったら発情しすぎて我慢できなくなってるみたい。

これだけ大きくなったおちんちんだもの、興奮するのも仕方が無いわ。

……それにしてもこんなに堅くして、よっぽど興奮してるみたいね？

ここに来てから焦らされっぱなしだものね。

ようやく雌の穴に入れられるって思ったら、本能剥き出しになっちゃう？

音子

何やってるの、桔音えっ！

もう待ちくたびれちゃうよおっ。

桔音

くすくす……そんなにお尻を振ってアピールしなくたって大丈夫よ。
すぐにこのガチガチのおちんちんが入るんだから。

○強張る

……あら？

あなた、大丈夫？

もしかして緊張してるんじゃない？

大丈夫よ、焦らなくても。

私が横についていてあげるから……。

落ち着くように、キスしてあげましょうか？

……ほら、こっち向いて……んっ。

……っはあ、ん……、んう、ん……はあ。

ほら、だいぶ落ち着いてきたでしょ……んっ。

んふ、んっ……乳首も触っていてあげましょうね。

んっ、はむ……ん……んっ。

……んん……んふふっ。

乳首触られながらキスされて、おちんちんビクンビクン跳ねてるわよ？

音子

もうっ、桔音えっ！

自分だけ愉しんでいないでよおっ！

そんなに焦らされたら私、悲しくって泣いちゃう～っ。

桔音

少し焦らしすぎたみたいね。

……だけどあなたも、こうやって焦らすの嫌いじゃないでしょ？

すぐに入れるんじゃなくって、おちんちんの先っぽで音子のおまんこを上下になぞってみて？

○おちんちんをあてがう

音子

はっ……あああっ……!?

あっ……おちんちん、来たああ……堅くて熱い……！

あっ、あああっ……！

○おまんこを上下になぞる

んん……ん？ あれ？

え、ど、どうしたの……？

入れて良いよ？ 良いんだよ？

奥まで来て良いのにい……あっ、あああ……あっ！

桔音え……もしかしてまだ焦らしてるのおっ……？

桔音

うふふっ、バレた？

でもそうやって悶える音子、とっても可愛いわよ。

ずーっと見ていたいくらい。

音子

そんなことされたら、私の方が持たないよおっ……ん、ふうっ。

先っぽ擦りつけられるだけじゃ物足りないっ……！

おちんちん早く来てええっ！

桔音

……だそうよ？

だけど、もっと焦らしたいわよね？

今度はおまんこの割れ目に沿って、竿を移動させてみて。

腰をゆっくり上下に振りながら……逆素股、ってところかしら？

○逆素股で擦りつける

音子

ああーっ!?

あっ……はあ、はあっ。

お、おまんこに入っていないけど……気持ち良い……！

はあっ……おちんちんがコスれて……。

あっ、んんう、うっ。

そこ、おっ、クリトリスう……あっ、あああああっ！

はあっ、クリトリスに堅いのがコスれて……良いい……っ。

……気持ち良いよおっ、あっ、は、はああはあああんっ！

桔音

あらあら、音子ったらそんなに腰をビクビクさせちゃって……！

もうこれで充分すぎるくらいに気持ち良いでしょ？

おちんちん入れる必要はないかしら？

音子

ダメだよ……あっ……。

せっかく、久しぶりのお客さんなんだからあ……っ。

絶対入れてもらうんだからあ……んっ、んんうっ。

桔音

それじゃあこうしましょうか、音子？

おちんちん入れてもらうまでにイッたら、そこで終わり。良いわよね？

音子

そんなのずるい……んあっ、んっ、んんううっ……！

漏れ出した愛液で、おちんちんヌルヌルっ……！

滑りが良くなって……あっ、ああ、ああああっ……！

桔音

ねえ、もっと悶える音子のこと、見たいでしょ？

今度は自分でおちんちんの根元を持って、真上に振り上げてみて。

音子のクリトリスを刺激するみたいに……分かるでしょ？

やってみて？

○おちんちんを振り上げてクリトリスを弾く

音子

ひゃあうっ!?

んっ、あっ、はああっ！

んっ、んんんうっ……！

それ……！ 刺激……いつ！ 強すぎい……！

あっ……！ ああっ！ はうっ！

んあっあっあああっ……！

桔音

……はい、ストップ。

このままだと本当にこの子、イっちゃうから。

意地悪もこれくらいにしてあげましょうか。

おちんちんの先っぽ、またおまんこにあてがってみて？

○おちんちんをあてがう

音子

あああ……か、堅いの、当たって……。

……んんう、うっ。

今度こそ入れて……え？

もう我慢できないから……。

あっ、んああっ！

桔音

そのまま腰を前に押し出せばおまんこに差し込めるけど……。

その前に私の話を聞いてくれる？

何度も言っているけど、ここは私たち以外、誰もいない世界。

だからどんなことがあっても、誰にも迷惑がかからないの。

……例えば大きな声を出しても良いの。

男の人は気持ち良くて、声をあまり出さないわよね？

でも、今日は……今だけは、そのことを忘れて。

本能に応じて、好きなだけ声を出して良いから。

獣みたいな声を出しても良いの。

……それに、こんなことができるのは今日だけ。

この世界に足を踏み入れること自体、奇跡に近いんだから。

今夜くらいは、あなたの「獣」の部分をさらけ出しても良いの。

音子のおまんこ、見えるでしょ？

焦らしにじらして、もう愛液でとろとろのどろどろよ。

あの穴で、好きなだけ交尾していいの。

……それじゃあ、始めましょう。

ゆっくり腰を前に押し出して、おまんこにおちんちんを挿入してみて？

○挿入する

音子

ああーっ!?

あっ、ああああっ……！

おちんちん、入ってきたあ……！

やっとな……やっとな……！

ずーっと待ってたおちんちんが……。

あっ、あああああっあっ、あっ！

おまんこのお肉をかき分けて、奥にい！

……あっ、はっ、あんんうっ……！

桔音

音子のおまんこはどう？

温かくて柔らかくて、キツキツでしょ。

……そのまま一気に、奥まで突いてみて？

○奥まで突く

音子

ああ一つ!?

あつ……はああつ、あ……！

おちん……ちん、奥まで一気に来たあ……。

はあつ、はあつあつああつ……！

おまんこの中、おちんちんでいっぱい、だよおおっ……！

桔音

音子、苦しい？

動くのはしばらく待ってもらった方が良い？

音子

やだあ……！

もう待つのにやあ……！

たくさん、欲しい……っ。

気持ち良くしてよおお……！

桔音

……して欲しいらしいわよ？

それじゃあ音子の腰を掴んで？

○音子の腰を掴む

……うふふ……そう。

そのまま、思い切り激しく突いてあげて？

○激しく突いてピストンする

音子

ううあっ!?

はっあっあっあっあぁーあっ……!?

ああ……はっ、はぁあああっ、あ、ああああ……！

それ、ダメええ……激しすぎて……はぁはっ、あああんうっ!?

桔音

あら？　たくさん突いて欲しいって言ったのは音子じゃなかったかしら？

音子

たくさん、突いて欲しいけど……あっ、あっ、ああああっ!?

はう、これすごい……！

おまんこの奥に、おちんちんが当たって……はあっ、あっ、ひいええっ！

壊れる……！

おまんこ壊れちゃう……！

壊れちゃうくらい、気持ちひいつ……！

……でも、止めないでえええ……！

気持ち良いから、止めちゃ、やだ……！

あっ、あっ、ああうあ、ああっ……！

桔音

こんなに気持ちよさそうな姿見せられたら、意地悪したいわよね？

腰の動き、緩急つけてみて？

○ゆっくりピストンする

音子

んんあ、あ、……え!?

ど、どうして急にゆっくり……?

あっ、あっ、ああっ!?

ううああ、ああ、今度はまた速……んっ、んんうっ!

はあ……、またゆっくり……ふえ、なにこれえ……?

はあ、焦らしちゃ嫌だよ……。

んあっあっああええっ、あっ、あっ、ああっ!

ま、また速く、はっはうんうううう!

こ、こんなのどうすれば良いのお……?

速いのもお……はあ……ゆっくり……のも……んんうっ……気持ち良い……!

どっ……ちも……気持ち良くて……あっ、あっああっ。

こんなの初めてだから……。

はっ、はっはっはあ、ああ、あああっ!

桔音

音子ったら、気持ち良すぎておかしくなっちゃってる。

……でも、おかしくなってるのはあなたも一緒みたいね?

鼻息が荒くて、声も少し出てる気がするけど、私の気のせいかしら?

ふふふ……それでいいの。

今日のあなたは「獣」なんだから。

気持ち良くなることだけを考えれば良いの。

音子

……んんうあっ!

ああっ、あああっあ、あああ!

おまんこ、ヒクヒクしてる……!

気持ち良いつて言ってるみたいで……あああ、はああ、あっ!

今まで、こんなに気持ち良いことなかった……っ。

初めてだよお、あっ、あっ、ああはあっ!

桔音

……くすくす。

こんなこと言われたら、もっと気持ち良くしてあげたくなるでしょ？

音子の腰を掴んでる手、片方だけ離せる？

○腰を掴む手を片方離す

……そう、それでいいわ。

その手をそのままおまんこに近づけて、クリトリスを指でつまんでみて？

○音子のクリトリスをつまみ弄る

音子

……ひぎっ!? ひゃっ!? んひいつ!?

らめっ……今、敏感なのに……。

あっ、ああっ、ああうっ！

クリ、弄っちゃ……。

あっ、ああっ！ ひゃあ、あ……！

ああ、うううっ、あっあっあっあっ、ああっあ！

……苦しい……！

気持ち良いのっ苦しいよお……。

あ、ああっあっ……あああんんうっ！！

桔音

あら、やりすぎちゃったみたいね。

あなたも腰を振りっぱなしで疲れたでしょ？

休憩がてら、止まりましょうか？

ほら、止まって。

○ピストンを止める

音子

……っはあ！ ……っはあ！ ……っはあ！

……えっ？

ど、どうして……？

どうして……ええ？

止まっちゃうの……？

はあ、はあ、はああ……。

桔音

だって苦しいって言ってたじゃない。だから止まってくれたんじゃないの。ねえ？

音子

そ、そんなあ……。

確かに苦しかった……けど、気持ち良いの終わっちゃうのはいやあ……！

せっかく、久しぶりの交尾なのにいつ……。

もっと……意識飛んじゃうくらいに強く、気持ち良いの欲しいよお……！

桔音

……だそうよ？ あなたはどう？

○我慢しているあなたを見つめる桔音

うふふっ、あなたも気持ち良いのが恋しいみたいね。

腰を動かしたくてうずうずしてるんでしょ？

……でもダメよ？ じーっくり焦らして、その後の快感を愉しみましょう。

音子

うー……そんなの待てない……！

だっておちんちんをおまんこに入れてもらってるんだよお……？

そんなにもったいないこと……できない……！

桔音

……うふふっ、この子ったら自分で腰を前後に振り始めちゃった。

よっぽど交尾が気持ち良いみたいね。

……それとも、あなたのおちんちんが特別なのかしら？

どちらにせよ、あなたも我慢できないみたいね。

音子の腰の動きに合わせて、少しずつ腰が動いてるわ。

○恥ずかしそうにするあなたに笑いかける桔音

くすっ。気づいてないとでも思った？

……良いわ、あなたはもう十分に我慢したものね。好きなだけ腰を振って良いわ。

音子もあなた自身も、好きなだけ気持ち良くしてあげて？

○思いきり腰を動かす

音子

んあーっ……!? あっ、あっ、あっ、あっはぁあっ！

激し……さっきより激しっ……あっ、あ、あああ！

でも……良い……！ 気持ち良い……！

奥まで突いてもらって、気持ち良い……！

それにおちんちん、大きいから……っ。

おまんこの中、引っ張り出されてる……っ！

あっあっあっあぁっ、あっはぁはぁっあああ！

もう無理い……限界いっ……！

来ちゃう……もう……すぐ一番すごい、来ちゃうっ……！

桔音

イっちゃいそうなのね、音子。

……でも、音子だけじゃないみたいよ？

お客さんもそろそろ限界が近いみたい。

音子

本当……？ だったら一緒に……あっ、ああああっ！

気持ち良いのは、嬉しいことだから、あっあっ！

二人で一緒に気持ち良くなれたら、もっと嬉しい……！

だから、来てえ……！

私の中に、そのまま出して良いからあ……！

んあっ、あっあっああっ……あっ、あああああっ！

んっ、んんっううっ！

んっ、**んんう~~~~~っ！！**

桔音

イっちゃった？

音子の望み通り、一緒にイケたみたいね、良かった。

遠慮する必要ないわ。全部音子の中に吐き出して良いからね？

音子

はあ……熱いの、いっぱい出て……はあっ……んんうっ……！

出される度に、おまんこ気持ち良くなって……はあ、はあ……はあ……！

桔音

音子がトロけちゃうくらいに、たくさん出してくれたのね。

ありがとう……全部出たかしら？

ゆっくり引き抜いて、そう……。

○ゆっくりおちんちんを引き抜く

音子

……んんっ……。……はああ……っ。

○ぐったりと布団に倒れ込む音子

桔音

うふふっ、おちんちんの支えがなくなって、音子ったら倒れちゃった。

○あなたの萎えきれていないおちんちに気付く桔音

……あら？　たくさん出した割にはまだ随分と堅いみたいね。

もしかしてまた物足りなかった？

……だったら、今度は私がお相手してあげないとね。

音子の隣に並んで横になってみて？

○音子の隣で仰向けになる

大丈夫、全部私に任せてくれたら良いから。

【5 桔音】

[SE有：同時絶頂（18：28） SE無：同時絶頂（18：17）]

桔音

まずはおちんちんをもっと元気にしてあげましょうか。

堅いけど、まだ出したばかりだものね。

……大丈夫、あなたはじっとしてくれているだけで良いから。

○あなたのおちんちんに顔を寄せる桔音

ん、ああ……んむっ、んん……ん。

……ごくっ……はあっ……。

絞りたて精液の味がする……おいしっ……。

んっ……ん……んふ……んっ……ん、ん、ああ……。

あら、どうしたの？

おちんちん逃げてない？

いったばかりで敏感だから、気持ち良すぎるのかしら？

くすっ……でも、逃がさない……あむっ。

……んあぁっ……おちんちんの中に残った精液、出てきた……っ。

ん……んふ、濃厚でドロドロ……んあっ。

ちょっとしょっぱいのは、音子の愛液の味が混ざってるからかしら？

んふふっ……んう。

おちんちんの中に残ってる精液、全部吸い出してあげるからね。

……んん……んう、……んっ……ん、ん、んっ……ぷはあっ！

はあ……はあ……ん、ごくっ！

うふふっ、美味しかった。ごちそう様。

んっ……久しぶりのおちんちん、やっぱり美味しいわね。

もう少し、舐めていても良いかしら？

くすっ、良いわよね？

んっ……んは、……んふ、んんう……んあ……。

音子

はぁ……はぁ……。

桔音、美味しそうにおちんちん舐めあげるね。

たくさん気持ち良くなったあとだけど……ゴクリ。

見てるだけで美味しそう……っ。

桔音

……んぁはむ……あむ、んは……。

んん、おいひっ。

んふ、おちんちん、びくびくしてる。

ん、ん……んんむ……。

音子

あーもうっ！

私もおちんちんぺろぺろしとけば良かったよー！

桔音

んは……ちゅばっ。

残念ね、音子……。

ん、あむっ……ん、んふ。

特に、ここ……んっ……んぁ、根元が美味しいの……っ。

臭いが濃くて……。

ん、んぁむっ、もごっ……んぁっ。

……ああ、良い……。

あはうっ……んう、んはっ。

ああ、ここ……玉袋の中に、精液が詰まってるのよね。

音子

桔音、たまたままで舐めちゃうの……？

ああ、さっきあんなに出したのにたっぷり膨らんでるよぉ……！

桔音

くす。ごめんなさいね、音子……いただきます。

あむ……んぶっ、んん……んう、ん、ぶはっ！

すごい、ぷりっぷり……！

まだたくさん入ってる証拠ね……。

はむ……ん、んむ、んっ、むっ……んあっ！

んふっ、パンパン……！

それにここをちゅぱちゅぱ吸うと、おちんちんビクビクってするわね。

あむっ……んぱっ、んん……ん、あむっ……んう、んぱっ。

っはぁ、うふっ……。

おちんちんすごく堅くなった……！

このガチガチに勃起したおちんちん、おまんこに入れたら気持ち良いんでしょうね……。

音子

……そろそろ入れたいみたいだよ？

桔音ってば知ってる通り虐めるのが大好きなんだ。

……でもねここだけの話、虐められるのも好きなんだよ。

虐めてみたいと思わない？

こんなに強気そうな桔音が、快楽に墜ちるところ……見たいでしょ？

私が協力するから、二人で虐めてみない？

さっき虐められたから、その仕返しをしたいんだ。

例えば……このまま桔音の口に出すだけで終わり、なんてどう？

きっとね、桔音もおまんこに出して欲しいと思うんだ。

だからその期待を裏切ってあげようよ。ね？

桔音

んっ、ん、う……！

音子、んん……さっきから全部聞こえてるわよ。

んんん……いたずらを企んでいたみたいだけど、おあいにく様。

射精するかどうかなんて、おちんちんの様子を見てれば分かるのよ。

音子

……ううっ。

バレてた、さすがは桔音。地獄耳。

桔音

……他の悪巧みをされる前に、入れちゃおうかしら。

またがらせてもらおうよ？

○騎乗位の姿勢であなたに跨る桔音

……んっ。

ん、んしょっと……。

うふふっ、亀頭が爆発しそうなくらいに膨らんでる。

早くおまんこに入れて欲しくて仕方がない、ってことかしら？

……こういうの見ちゃうと、焦らしたくなっちゃうのよねえ。

おまんこの中を味わう前に、まずは亀頭に意地悪してあげる。

○ゆっくりと亀頭におまんこを擦りつける桔音

んっ……んん、ん、うっ……。

割れ目にコスれて、あっ……気持ち良いつ……ん……。

音子

あーあ、結局桔音の主導になっちゃうんだよねえ。

……でも、まだ機会はあるからね？　じっくりその時を待とう？

桔音

んっ……んあっ……あっ……くすっ。

だから音子？　全部聞こえてるのよ？

音子は内緒話がへたくそね……。

んっ、んん、あああ……うつ……うう……んっ……。

だけど、あなたのおちんちん、さっき出したばかりだとは思えないわね……！

あっ……あ、堅くて、熱くて……。

んあっ……ほら分かる？

おまんこから愛液、トロトロ～って流れてきてるでしょ？

○擦り合う部分をまじまじと見つめる音子

音子

……わあ。

我慢汁も出てるけど、それ以上に桔音の愛液がすごい……！

桔音も相当スケベだからね。

久しぶりのおちんちんに、興奮してるんだよ。

桔音

……だから音子、聞こえてるから。

あっ、んんうつ……ああっ、あっ！

でも、んっ……おちんちんに興奮しているのは本当……うあっ。

ヨダレ垂らしてるみたいに、愛液止まらない……！

ん……んんっ……！

このまま素股みたいに、おちんちん挟み込んであげましょうか？

んっ……ほら……。

んっ、はああっ、ん、んっ。

はあっ、んんうつ……んっ。

クリに当たって、はああ……良い……っ……はあっ。

音子

だいが鼻息荒くなってきたねー？ 気持ち良い？

でも、やっぱりおまんこに入れさせて欲しいよね？

桔音、焦らすのも良いけどこれじゃあお客さんが可哀想だよー。

桔音

んあっ……はっ……くすくす、そうかしら？

まあ、それもそうね……んっ。

それじゃあそろそろ、私の中で可愛がってあげる。

○おまんこにあてがう桔音

んっ！ はぁ……堅い……！

おまんこもおちんちんもトロトロに濡れてるから、腰を下ろすだけで入りそう。

……ん、はぁ……っ……下ろすわよ？

○ゆっくり挿入する桔音

んっ……あっ、あっ……あぁっ！

んんうっ……！

はぁっ……はぁ……。

音子

ねえねえ、やられっぱなしは嫌でしょ？

ちょっと腰、引いてみて？

おまんこの奥までおちんちんが入りきらないから、桔音ももどかしいと思うよ？

○腰を引く

桔音

んっ！

は、あっ……あっ、あぁっ、ん、んう……はぁ……。

入った……入った……？

思っていたより浅い……んふふっ？

もしかして音子、何か入れ知恵した？

音子

うふふっ、バレちゃった？

今まで散々意地悪してきたお返しだよ、桔音。

たまには焦らされちゃいなよっ。

桔音

私は別に焦らされても……あぁっ、あ、んっ。

あら……？ 何かしら、これ……？

んっ……焦らされて悦ぶ趣味なんかないはずなのに……。

……はぁぁぁっ、はぁ、んっ。

もどかしくて……はぁ、はぁ……。

だけどそれが良い……っ。

……はぁ……あぁっ。

音子

ほらね？ 桔音もやっぱり焦らされるのが好きなんだよ。

そのまましばらく、奥まで入れてあげるのはお預けにしてあげて？

桔音

ん……そうはいかないわよ、音子？

……ね？ あなたもそうでしょ……んっ。

せっかくおまんこにおちんちん入れたんだから、奥まで差し込みたいわよね？

んっ……私のおまんこの一番奥の奥……。

根元までそのぶっといので犯したいでしょ？

くす……良いのよ、本能に従って……。

私も、雌の本能がうずくの。

あなたの立派なおちんちんで突いて欲しいって……。

だからほら、おいで？

おまんこで気持ち良くしてあげるから。

ほら……？

音子

……そろそろ良いよね。

勢いよく腰を上げて、桔音を突き上げて！ ほら！

○勢いよく突き上げる

桔音

なっ……あっ、んんうっ!?

あっ、はあ、はあっ、あう。

……そんな、いきなり来るなんて……う、うううっ！

はあはあはっ、んんっ……はあっ、んあっ、んんっ、んんんうっ！

はあっ……ん、あっあっああっ……んん、あ…っ！

音子

良い感じだよ。

ほら見て？ 桔音ってば、相当感じてるみたいだよ。

私の言うとおりにすれば、もっと桔音のいやらしい姿見られるからね。

桔音

なっ……はっ……あっ、んっ、んう！

……んっ、ふうふうう、うっ。

音子、んんっ……何を勝手なことを……。

ん、んっ……は、ああっ、はあ……んうっ！！

音子

良い感じみたいだよ、うふふっ。

桔音も感じて、腰動かしちゃってるね。

その動きに合わせて、腰を突き上げてみて？

○桔音の動きに合わせて突き上げる

桔音

はっ!? ……はああっんうっ……!

は、はあはあっ、奥……おちんちんの先っぽ、突かれて……!

あっあっんんうっ、はあはああ……ふ、深いっ……!

はっ、はっ、はっ、はあっ、深くまで来て……。

はっ、あっ、んんんうっ、ふっ、ふあ、あっあああっ!!

音子

良いね良いね～。

こんなに乱れた桔音を見るのなんて、初めてかも。

もっと腰を高く突き上げてみて?

○更に高く突き上げる

桔音

あっ、はっ、はっ、あんうう、はうん、んっ……!

ちょっと、音子……はあ……やり過ぎよ……あっ、ああ、ああっ……!

はあはあ……こ、こんなに突いちゃ……。

あ、あ、あ、ああっ、ああっ、はあっはっ。

おお……おかしく……なっちゃう……!

んんうんっ、あっはっ、はあっ、あああっ!!

音子

ふふっ。

おかしくなった桔音も見てみたいけど、そこまで言うんなら……。

……!

だったらさ、今度は桔音が腰を上下させるのに合わせて腰を動かしてみたら。

たっくさん動いても、おちんちんはあんまりおまんこの中でコスれない……。

……そうだったらさ、桔音はどういう反応するのかな?

試してみない?

○桔音の動く通りに腰を動かす

桔音

んっうっ、ん……っ？ はあ……？
はあ……な、ああ……あ、どうして……？
……はあ……こんなに腰動かしてるのに……ん、ん、えっ？
はあ、私の動きに合わせて、腰動かしてるの……？
ん、もうっ！ そんなことしたら、おちんちんがコスれないじゃない……！
んっうっ……んんっ、ふう、んふうっ……！

音子

くふふふっ……ふふふっ……あはははっ……うふふっ。
いつも桔音に意地悪されてばかりだから、たまには仕返しするのも良いね。
それじゃあそろそろ、気持ち良くさせてあげよう？
思いっきり腰を引いて、奥までおちんちんを突き立ててあげて？

○深いストロークで突き上げる

桔音

んんっ！ はあっ！ んああっ！ はあはあはあはっ！
今度はまた、深いのが来た……はあっ！ んう、んあああっ！
はあはあ、もう……んあっ、意地悪ばかり……！
んんっ！ はっ！ あううんっ、はあっはあっはあっ……。
でも……でも、良い……！
はあ……んんっ、はあっ……。
焦らされて、激しくされて……ん、あ、あ……気持ち良い……っ。
はっ、はっはあっん、んうふう！
カリが……はあはあ……お、おまんこの中を引っ張り出すみたいで……んんうっ！
はあ、はっ、はっ……音子の前なのに……ん、ああ、ああっ……感じちゃう……！
ふっ、ふっ、んんうう！

……はあ、はっ、はっ、はっ、はあ……。

はっ、はっ、はあぁっ、うううん……はあ、ああ、うう、んん、ふうっ！

はあはあ……せ、せっかくのお客さんなのに……あっ……んあっ。

あっ、はっ、はっ……私ばかり気持ち良くなっちゃうなんて……！

はあっ！ んっ……ふううっ……はあはあ。

音子……ん……はっ、はっ。

お客さんのこと……はあはあ……もっと気持ち良くしてあげて……？

……っう、はあぁっ！

音子

うん、分かったよ。

私もさっきたくさん気持ち良くしてもらったからね。

それじゃあ……精液がパンパンに詰まった玉々、優しく触ってあげる。

撫でるみたいにゆっくり、そ〜っと……。

○玉々に優しく触れる音子

桔音

んあぁっ……!?

はっ、はっ、はっ、はあぁ……おちんちん、また堅くなって……んあぁぁっ!?

だ、めえ……あっ、ん、んあぁっ、はっ、はあっ、んんううっ……！

ふう、ふう……腰、止まらない……はう、はっ、はあっ！

……気持ち良すぎて止まらな、あっ、あ、あ、あっ、あぁんううっ！

音子

こんなに狂ったみたいに腰を振る桔音、初めて見たよ。

それに……あははっ。

もう床まで桔音の愛液でびしょびしょだよ。

桔音、そろそろイきたいんじゃない？

桔音

あはあっ、はあ、はあああっ……イきたい……！

はあ、はっ、はっ……もう我慢できないっ……はあ、あ……。

……ねえ、イって……？ あなたもイきたいでしょ？

はあ、はあっ、おまんこの中でどぴゅどぴゅって……。

んん……んんううっ……はあっ、はっ……。

言わなくても分かる……だってこんなにおちんちん、ガチガチになってるから……！

音子

さっき私の中で出したけど、まだ足りないでしょ？

良いんだよ、玉々が枯れるまで射精しても。

桔音が全部受け入れてくれるから。

……ほら、出して？

おまんこの一番奥深い場所で、さあ早く……！

桔音

あっ、んっ、ああんんうっ……！

はっ、はあっ……ああっ！

来る……気持ち良いの来る……！

ああっ……は、ああっ……はっ！

あっあっあっあっあっあっあっあっあっあっあっあっあっ！

ああっ、はあっううっ……！

んんうう〜〜〜っ！！

あああ……はあ……ああっ……はあああ、はあ……あああ……(はあ……。

……熱い……(はあ……(はあ。

火傷しそうな程熱いの、出てる……！

あはあ、あ……びゅくびゅく、って……。

んっ、ん、んううっ……。

はあ……んは……はあ……はあっ……んっ。

……(はあっ……ああ……(はあ……あ……。

音子

あーあ、桔音もお客さんもぐったりだね。

見てるだけだったけど……意地悪するのってやっぱり楽しいなあ、あははっ。

【6 川の字でおやすみなさい】

音子

あー、楽しかったねー。

まだし足りないくらいだけど……もう限界だよね？

それじゃあちゅーで許してあげるよ。

んんっ……！

ん……んはあ……んっ……。

桔音

また音子ったら抜け駆けして……。

ほら、こっち向いて舌を出して？

○桔音の方を向き、舌を出す

あ……あむ、ん……。

んふ、んっ……んは……んっ、んふっ……ぶはあっ……。

……私たち二人のおまんこはどうだった？

気持ち良かったでしょ？

音子

明日の朝にはちゃんと帰してあげるからね。

だから今夜はゆっくり眠って？

ほら、ぎゅーって抱きしめてあげるから。

○あなたを抱きしめる音子

桔音

それじゃあ私は……。

○あなたの頭を撫でる桔音

あなたが眠るまで、こうやって頭を撫でていてあげる。
目を閉じて……。

○うとうとする

……うふふっ、すぐにでも眠ってしまいそうね。
あれだけたくさん出したから仕方ないのかしら。

○眠りにつく

音子

……もう寢息立ててる？
うふふっ、可愛い寝顔だなー。
よっぽど疲れてたんだろうね。

桔音

一気に私たち二人を相手にしてくれたものね。
激しくて、情熱的で……。
私も今日はよく眠れそう。
……だけど気持ち良かったわね。
今までで一番良かったかもしれないわ。

音子

私も！ えへへっ、このお客さん気に入っちゃった。
でも明日の朝には帰しちゃうんだよね？
なんだかさみしいなー。
……でも、桔音？
久しぶりのお客さん、楽しかったね。

桔音

ええ、そうね。

もう二度と会うことはないけど……。

目が覚めたら、夢だったのかも、って思うかも知れないわね。

まあ、それでも良いわ。

今この瞬間は幸せなんだから。

音子

ふわ～……私も眠くなってきた。

寝るね、桔音。

おやすみ～。

桔音

……おやすみ、音子。

良い夢を見てね……。

○あなたへ優しく口付けをする桔音。皆で深い眠りにおちていく。